

## 第5回鹿野地域振興会議 視察概要

日 時：令和6年11月12日（火） 午前8時30分～午後5時

場 所：NPO法人さじ未来、岡山県奈義町役場

### 【出席委員】

岡本洋一、小川義和、長谷川誠一、兼平 恵、砂川重雄、佐々木千代子、筒井洋平、山名 修、武部夏美 以上9名（敬称略）

### 【欠席委員】

塚本 均、吉井秀三、池原恵理 以上3名（敬称略）

### 【事務局】

<鹿野町総合支所>

岡本支所長、小林副支所長兼地域振興課長（併教育委員会事務局鹿野町分室長）、  
國森産業建設課長、岡田市民福祉課長、宮本地域振興課課長補佐

### 【視察概要】

#### 1 NPO法人さじ未来

(1) 説 明 NPO法人さじ未来 理事長 小谷繁喜

(2) テーマ 共助交通さじ未来号の取り組みについて

(3) 内 容

#### ●佐治地区の概要（R5.9.30現在）

人口 1,586人（男747人 女839人） 高齢化率 55.4%（全人口中879人）

世帯・集落数 731世帯 26集落

#### ●小さな拠点事業の取り組み

- ・H16市町村合併時の人口約2,830人から18年間で約1,190人（42%）減少し、合併新市域の中で突出して人口減少と少子高齢化が進行している地域となる
- ・持続可能な地域づくりには住民主体で新しい地域運営の仕組みづくりが必要
- ・H28「小さな拠点事業事前検討会」での協議、住民アンケート等を実施

- ・H29「佐治町小さな拠点事業推進委員会」で地域助け合い事業計画を策定
- ・H30 地域助け合い事業の集落説明会を開催（15/26 集落）
- ・R1 NPO法人さじ未来を設立し、地域助け合い事業など順次事業開始
- ・「行政任せ・行政頼り」から「できることは住民主体で取り組む」への転換

#### ●NPO法人さじ未来の活動

- ・「地域助け合い事業（お助け要員派遣事業）」家事支援、草刈り、雪かきなど
- ・「ふれあいサロン事業」住民誰もが気軽に集える場づくり 概ね2カ月に1回
- ・「地域内交通事業」共助交通さじ未来号の運行ほか ※今回の視察の目的事業
- ・「ふれあい広場管理事業」芝生化した広場（旧佐治中学校グラウンド）の管理
- ・「まちづくり協議会事業」まち協・公民館などの事務局、地域づくり団体支援
- ・「佐治ふるさと祭り事業」イベント事務局
- ・「指定管理事業」佐治町コミュニティセンターの管理
- ・「放課後児童クラブ運営事業」放課後児童クラブ「さじっ子クラブ」の運営

#### ●地域内交通事業

- ・R2.7 地域交通住民アンケート調査（中学生以上）実施 回収 990/配付 1,707  
 <調査結果を踏まえた方針>  
 通学目的以外の利用者が少なく、バスの維持・確保に係る支出額も高止まりしていることから、効率的かつ地域の移動実態・ニーズに対応した、持続可能な新たな移動手段確保策として、地域が主体となった移動手段である「共助交通」の検討を進める。
- ・R2.11 通院や買い物等を目的とした「共助交通試験運行による調査」を実施
- ・R3.5 アンケート調査結果を踏まえた方針や、共助交通試験運行に対する意見要望を基に「佐治町生活交通創生ビジョン」を策定

#### ●地域交通さじ未来号の運行

運行主体	NPO法人さじ未来	運行開始	令和6年1月1日～
運行形態	毎日運行	運行範囲	佐治町一円及び用瀬駅周辺
運行時間	平日 6:30～19:30 休日・年末年始 8:30～17:00		
対象者	佐治町民に限らず、どなたでも利用可能		
利用料金	中学生以上 200 円 小学生・障がい者 100 円 幼児無料		
予約方法	電話予約（乗車希望日の前日または乗車の1時間前まで）		

**使用車両** 10人乗りバン2台、4人乗り軽自動車1台

**ドライバー** 11人（地域雇用の正規8人、控え3人 50～60代）

**運行管理体制** 運行管理者および補助者がドライバーを管理、車両の運転前チェックおよび運行計画などを作成

※R6.8～ 体調・アルコールなどの運転前後チェックをリモートで実施 委託先：日野自動車

●地域交通さじ未来号における課題と今後の取組み

- ・事業の継続性を高める → 将来的には運送会社と提携した「貨客混載」などにより財源を確保
- ・予約利用者増加に伴う事務局負担増 → AI予約システムの導入などを検討



## 2 岡山県奈義町役場

(1) 説明 奈義町役場 情報企画課

(2) テーマ 子育て支援の取り組みについて

(3) 内容

●奈義町の概要（R6.4.1現在）

- ・中心部から半径2kmに人口8割が定住するコンパクトシティ
- ・R1合計特殊出生率2.95を記録し、全国から注目を集める

※11/12視察当日も山形県、新潟県などから5団体の視察あり

- ・子育て世帯の半数が子ども3人以上の多子世帯

**面積** 69.5km<sup>2</sup> **人口** 5,560人（R4.4.1時点では5,725人） **世帯数** 2,438世帯

**特色** 陸上自衛隊日本原駐屯地（演習場の面積は行政区域の約2割）

●切れ目ない経済的支援

- ・ 特定不妊治療 年額20万円（県助成を引いた額の1/2以内）
- ・ 出産祝金 10万円（保育料多子軽減、18歳までカウント）
- ・ 在宅育児保護者支援金 月額1万5千円
- ・ こども園、小中学校で給食費無償化
- ・ 小中学校で教材費無償化
- ・ 高校生までの医療費無料
- ・ 高校生への就学支援金 年額24万円
- ・ 町独自の大学奨学育英金（卒業後に町への定住で全額返済免除）

●地域と行政がつながる伴走型の産前産後ケア

- ・ 保健師による手帳交付時面談 悩み相談、子育て支援サービス紹介
- ・ きずなメールによる情報発信 育児に必要な情報をプッシュ型で配信
- ・ 産前産後カウンセリング 心理士によるうつ防止の定期的カウンセリング
- ・ プレよち広場 妊娠中の過ごし方、出産、産後育児を学べる講座
- ・ 母乳相談 産後1年未満の産婦を対象に助産師が無料訪問
- ・ 産後ヘルパー 簡単な家事など地域団体の生活支援サポーターが訪問（有料）

●地域と子育て拠点施設「なぎチャイルドホーム」

- ・ 子育て世代が気軽に通える施設を開放
- ・ 常駐する「子育てアドバイザー」による育児相談
- ・ 親子向けイベント、助産師や心理士による座談会の開催
- ・ 町民同士で支えあう子育てサポート制度
- ①ちょっと子どもを預けたいときの一時保育「すまいる」
- ②週4で通え、親同士で協力する保育活動「自主保育たけの子」

●魅力ある教育の推進 12人のALT配置（常駐）事業

- ・ こども園3人 小学校6人 中学校3人
- ・ 園小中一貫教育の中で英語が話せる子どもたちを育成
- ・ グローバルな視点を持ち、地域・社会貢献しようとする子どもたちを育成

●地域内の仕事の需要と供給 しごとコンビニ事業（一般社団法人しごとえん）

- ・ 子育てしながらでも就労できる仕組みや環境を整備
- ・ シニア世代などの“時間に余裕のある人” “社会の役に立ちたいと考える人”

らが少しでも働くことができる

- ・一つの仕事をみんなでワークシェアし、多くの人が地域や社会に関われる
- ・仕事の“受け皿づくり”による新たな産業創出と働きやすい環境整備
- ・仕事を依頼する側の業務効率化

●雇用の創出 企業誘致

- ・東山工業団地の整備 全16区画完売 約800人(9割が町外)が就労

●少子化対策の課題と取り組むべき施策

- ・子育てや教育にお金がかかりすぎる → 妊娠・出産・子育てまで切れ目のない経済的支援
- ・育児者の心理的・肉体的負担、子育て時の孤独・孤立 → メンタル的支援、男性の家事育児参画の推進、子育てにやさしい地域、安心感の醸成
- ・住む場所・働く場所が足りない、教育不安などの地域課題の解決



【地域振興会議委員の感想・意見】

- ・少子高齢化など、佐治は鹿野の未来の姿。最初は定着しなかった共助交通もやりながら今の形になった。鹿野の乗合タクシー実証実験の課題にあった不慣れな電話予約も利用者が適応していくのだと思う。行政が動くのではなく、地域の人たちが自分事として関わり、地域の課題を解決する姿が印象に残った。鹿野で実施しているイベントでも多くのボランティアに協力いただいているが、自己犠牲でなく、やりがいや生きがいを感じてもらえるようなやり方を考えていきたい。奈義町については財政が裕福ということもあったが、子育てや教育にお金を使ってもらえるのはうらやましい。12人のALTは人口も増え英語教育も充実できるので良い事業だと思う。

- ・各地域のいいところを独自に伸ばしているところが印象的だった。共助といっても地域を支える人の力が必要で、地域の力が問われる時代になったと感じた。
- ・両町とも大変勉強になった。地道にコツコツと努力された結果がより良いまちづくりに繋がっていた。色々なヒントをいただいたので、できることから始めて、やり続けることを意識して活動していきたい。
- ・地域の力ってすごいと改めて感じた。鹿野はすごく頑張っていると思ったけれど、視察先も地域に合ったやり方で尽力されていた。今後、子育て支援については将来のためにできることをやっていきたい。
- ・方向性を決め、それに向かって積み重ねていくことが大切ということを確認できた。地域で事業を進めるにあたり、住民がどのように関わり、どのように進めていけばよいのかを知ることができた。一番驚いたのは、鳥取県では1つの中学校に1人程度のALTだが、奈義町では12人のALTが配置されていたこと。良い視察地を選んでいただき感謝している。
- ・鹿野地域で大きな課題となっている「共助交通」と「子育て支援」について視察できありがたかった。佐治地域の住民が自分たちの移動手段を自分たちで守るという取り組みは大変参考になった。また、全国の自治体が人口減少で悩んでいる中、奈義町では行政と住民が協働で子育て支援に取り組んでいた。住民一人一人が意識して協力していかないと課題を解決できない。
- ・さじ未来では、共助交通だけでは運営が難しいので、様々な事業とあわせて実施することで人材・機材や財源の確保につなげていた。鹿野町で同じような事業に取り組む場合、どういった実施団体があるのか、どういった方法があるのかを考えていきたい。事業の安定経営をするためには財源確保が必要だが、利用者の会費で賄うなど、補助金がカットされた以降にどう事業を継続させるかを考えておくことが重要である。奈義町職員が言っていたように、生活環境や社会環境、人の共生、地域の立地を勘案しながら、いかに有効に資源を活用できるか考えることがまちづくりに繋がる。奈義町のように一定の財源があればよいが、お金が無くても人の関わり合いの中でできることは何か、検討していく必要がある。
- ・鹿野地域の課題について検討する材料をいただけたと思う。奈義町は豊富な財源を町単独事業に使えるところがあるので、鳥取市の一部の鹿野町とは異なっているが、新市域の他地域と議論しながら、自分たちのところはどうあるべきか市に声を届け、

事業を展開していく必要がある。地域振興会議の重要性が益々高まると感じている。鹿野地域でも病院やスーパーがいつまであるのかわからない。今の人口をいかに維持できるかということが大きな課題となっている。佐治の取り組みは、鹿野でも頑張れば何とかできそうだが、どういった事業主体をつくっていくかが問題。例えば、鹿の助スポーツクラブが公民館事業の一環で共助交通などをやっていくこともできるかもしれないが、できれば検討委員会を立ち上げ、それを母体にして公共交通の事業に取り組んでいければいいと思う。